

学校コード F140310110918

注3

設置年度 令和 5年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

届出

注2

福岡国際医療
福祉大学

医療学部

言語聴覚学科

【届出】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

学校法人高木学園

令和5年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

事務部企画室

職名・氏名

シツチョウ ミズノマサミチ
室長 水野真修

電話番号

092-832-1200（内線：3921）

（夜間）

092-832-1200（内線：3921）

e-mail

fuihw-secchi@takagigakuen.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

医療学部

＜言語聴覚学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	37
7. その他全般的事項	39

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人高木学園

(2) 大学名

福岡国際医療福祉大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒814-0001
福岡県福岡市早良区百道浜三丁目6番40号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タカギ クニノリ) 高木 邦格 (平成11年2月)		
学長	(ハラ ヒデオ) 原 英夫 (令和4年4月)		
学部長			
学科長等	(タメカズ テツシ) 爲数 哲司 (令和5年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)
令和5年度に報告する内容 → (5)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和5年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含まれていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
医療学部 言語聴覚学科 学士 (言語聴覚学)	保健衛生学関係 (リハビリテーション)	4 年	40 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	160 人	-	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。）

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期													
A 入学定員	人 () []	40人 40 (-) [若干名]	1人 (-) [-]	1.02 倍	1 倍	1.02 倍	1 倍										
志願者数	() []	98 (-) [-]	(-) [-]														
受験者数	() []	96 (-) [-]	(-) [-]														
合格者数	() []	60 (-) [-]	(-) [-]														
B 入学者数	() []	41 (-) [-]	(-) [-]														
入学定員超過率 B/A												1.02					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 編入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考	
	春季入学	その他の学期												
1年次	[] ()	41 [-] [-]												
2年次	/		[] ()	[] ()										
3年次			/		[] ()	[] ()	[] ()							
4年次	/				[] ()	[] ()	[] ()							
計			[] ()	41 [-] [-]										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、**留学生の状況について、内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況について、内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ **編入学生や転入学生も含めて記入**してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入**してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	41人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	0人	0人	
合計		0人		0人	0人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{41} = \boxed{0} \%$$

- (注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<医療学部 言語聴覚学科>

(1) -① 授業科目表

【届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	心理学	1-2-3-4前	2			1						
	哲学	1-2-3-4前	1									1
	倫理学	1-2-3-4前	1									1
	文学	1-2-3-4前	1									1
	教育学	1-2-3-4前	2									1
	教育評価学	1-2-3-4前	2									1
	コミュニケーション概論	1-2-3-4前	2									1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1									1
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2-3前後	2				2	2	1	5		7
	アジア比較文化論	1-2-3-4前	1									1
	法学	1-2-3-4前	1									1
	経済学	1-2-3-4前	1									1
	社会学	1-2-3-4前	1									1
	国際医療福祉論	1-2-3-4前	2									1
	社会保障制度論	1-2-3-4前	2									1
	ボランティア論	1-2-3-4前	1									1
	生物学	1-2-3-4前	2									1
	物理学	1-2-3-4前	2									1
	統計学	1後	2									1
	医療とICT	1前	2									1
	生命倫理	1後	2									1
	人間工学	1-2-3-4前	2									1
	健康科学理論	1-2-3-4前	1									1
	健康スポーツ実践	1-2-3-4前	1									1
	大学入門講座	1前	1				1					1
	医学英語Ⅰ	1前	1									1
医学英語Ⅱ	1後	1									1	
英会話 ※1	1-2-3-4後	1									1	
韓国語 ※1	1後	2									1	
中国語 ※1	1後	2									1	
小計(30科目)	-	14	31			3	1	1	5	0	26	
(留学生用)	日本語Ⅰ	1-2-3-4前	1								1	
	日本語Ⅱ	1-2-3-4後	1								1	
	日本語Ⅲ	1-2-3-4前	1								1	
	日本語Ⅳ	1-2-3-4後	1								1	
	小計(34科目)	-	4								1	

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	心理学	1-2-3-4前	2			1						
	哲学	1-2-3-4前	1									1
	倫理学	1-2-3-4前	1									1
	文学	1-2-3-4前	1									1
	教育学	1-2-3-4前	2									1
	教育方法論	1-2-3-4前	2									1
	コミュニケーション概論	1-2-3-4前	2									1
	死生学-死を通して生を考える-	4前	2									1
	経議と経贈-話す力と聞く力-	1-2-3-4前	2									1
	日本近現代史	1-2-3-4前	2									1
	宗教学	1-2-3-4前	2									1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1									1
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2-3前後	2				2	2	1	5		7
	アジア比較文化論	1-2-3-4前	1									1
	法学	1-2-3-4前	1									1
	経済学	1-2-3-4前	1									1
	社会学	1-2-3-4前	1									1
	国際医療福祉論	1-2-3-4前	2									1
	社会保障制度論	1-2-3-4前	2									1
	ボランティア論	1-2-3-4前	1									1
	ボランティア実践	1-2-3-4前	1						1			1
	生物学	1-2-3-4前	2									1
	生化学	1前	1									1
	物理学	1-2-3-4前	2									1
	データサイエンス	1後	2									1
	医療とICT	1前	2									1
生命倫理	1後	2									1	
人間工学	1-2-3-4前	2									1	
医学・医療史	1-2-3-4前	2									1	
健康科学理論	1-2-3-4前	1									1	
健康スポーツ実践	1-2-3-4前	1									1	
大学入門講座	1前	1				1					1	
メディカルマナー入門	1-2-3-4前	2									1	
医療福祉教養講義	1-2-3-4前	2									1	
医学英語Ⅰ	1前	1									1	
医学英語Ⅱ	1後	1									1	
英会話 ※1	1-2-3-4後	1									1	
韓国語 ※1	1後	2									1	
中国語 ※1	1後	2									1	
小計(30科目)	-	14	46			3	1	1	5	0	26	
(留学生用)	日本語Ⅰ	1-2-3-4前	1								1	
	日本語Ⅱ	1-2-3-4後	1								1	
	日本語Ⅲ	1-2-3-4前	1								1	
	日本語Ⅳ	1-2-3-4後	1								1	
	小計(34科目)	-	4								1	

【届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目（専門基礎科目）	保健医療福祉制度論	1前	2								1
	公衆衛生学	1-2-3-4後	2								1
	リスクマネジメント論	3-4前	2								1
	救急医学	2-3-4前	1								1
	リハビリテーション概論	1前	2						1		
	関連職種連携論	2後	1			1					5
	ケアマネジメント論	1-2-3前	1								1
	関連職種連携ワーク	3前	1			2	1	5			10
	解剖学	1前	2								1
	生理学	1後	2								1
	病理学	1後	1								1
	臨床医学概論	1前	2								1
	内科学Ⅰ（基礎）	2-3前	1								1
	内科学Ⅱ（臨床）	2-3後	1								1
	中枢神経機能学	2-3前	1						1		
	臨床神経学	2-3後	1								1
	精神医学	2前	1			1					
	リハビリテーション医学	1後	1						1		
	小児科学	2-3前	1								1
	老年学	2-3-4後	1								1
	基礎薬理学	1-2-3-4後	1								1
	栄養学	1-2-3-4後	1								1
	カウンセリング論	1-2-3-4前	1			1					
	耳鼻咽喉科学	2後	1			1					
	形成外科学	3前	1								1
	臨床歯科医学	2前	1								1
	口腔外科学	3前	1								1
	音声言語医学	2前	1				1				
	聴覚医学	2前	1			1					
	児童精神医学	2-3-4後	1			1					
	臨床心理学	2前	2			1					
	生涯発達心理学	1前	1			1					
	学習心理学	2後	1			1					
	神経心理学	2後	1				1				
	認知心理学	1後	1			1					
	心理測定法	2後	1			1					
	心理測定法演習	2後	1			1					
	言語学Ⅰ（基礎）	1後	1					1			
	言語学Ⅱ（発展）	2前	1					1			
	言語発達学	1後	2			1					
	基礎音声学	1後	1								1
	音声学	2前	1								1
	音声音響学	2後	2			1					
	聴覚心理学	3前	1								
小計(44科目)	-	42	12	0	4	1	1	3	0	19	

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目（専門基礎科目）	保健医療福祉制度論	1前	2								1
	公衆衛生学	1-2-3-4後	2								1
	リスクマネジメント論	3-4前	2								1
	救急医学	2-3-4前	1								1
	リハビリテーション概論	1前	2							1	
	関連職種連携論	2後	1			1					5
	ケアマネジメント論	1-2-3前	1								1
	関連職種連携ワーク	3前	1				2	1	5		10
	解剖学	1前	2								1
	生理学	1後	2								1
	病理学	1後	1								1
	臨床医学概論	1前	2								1
	内科学Ⅰ（基礎）	2-3前	1								1
	内科学Ⅱ（臨床）	2-3後	1								1
	中枢神経機能学	2-3前	1							1	
	臨床神経学	2-3後	1								1
	精神医学	2前	1			1					
	リハビリテーション医学	1後	1							1	
	小児科学	2-3前	1								1
	老年学	2-3-4後	1								1
	基礎薬理学	1-2-3-4後	1								1
	栄養学	1-2-3-4後	1								1
	カウンセリング論	1-2-3-4前	1			1					
	耳鼻咽喉科学	2後	1			1					
	形成外科学	3前	1								1
	臨床歯科医学	2前	1								1
	口腔外科学	3前	1								1
	音声言語医学	2前	1				1				
	聴覚医学	2前	1			1					
	児童精神医学	2-3-4後	1			1					
	臨床心理学	2前	2			1					
	生涯発達心理学	1前	1			1					1
	学習心理学	2後	1			1					
	神経心理学	2後	1				1				
	認知心理学	1後	1			1					
	心理測定法	2後	1			1					
	心理測定法演習	2後	1			1					
	言語学Ⅰ（基礎）	1後	1						1		
	言語学Ⅱ（発展）	2前	1						1		
	言語発達学	1後	2			1					1
	基礎音声学	1後	1								1
	音声学	2前	1								1
	音声音響学	2後	2			1					
	聴覚心理学	3前	1							1	
小計(44科目)	-	42	12	0	4	1	1	3	0	20	

【届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	言語聴覚障害学概論	1後	1			1						
	言語聴覚障害学診断学	3前	1			2	2	1	5			
	失語症・高次脳機能障害	2前	1			1		1				
	失語症・高次脳機能障害	2後	1			1		1				
	失語症学Ⅰ(評価・診断)	3前	1					1	1			
	失語症学Ⅱ(治療)	3後	1					1	1			
	失語症・高次脳機能障害	3前	1			1		1				
	高次脳機能障害学	3前	1			1						
	言語発達障害学総論	2前	1			1		1				
	言語発達障害学各論	2後	1			1		1				
	言語発達障害学Ⅰ(評価)	3前	1			1		1				
	言語発達障害学Ⅰ演習	3前	1			1		1				
	言語発達障害学Ⅱ(指導)	3後	1			1		1				
	言語発達障害学Ⅱ演習	3後	1			1		1				
	聴覚障害学総論	2前	1			1		1				
	聴覚機能評価学	2後	2					1				
	聴覚補償論(補聴器・人工内耳)	3前	1					1				
	小児聴覚障害学Ⅰ(評価)	3前	1			1						
	小児聴覚障害学Ⅱ(指導)	3後	1			1						
	成人聴覚障害学(二重障害)	3後	1					1				
	発声発語障害学総論	2前	1			1						
	流暢性障害学	2後	1					1				
	機能的構音障害学	2後	1					1				
	器質性構音障害学	3前	1					1				
	運動障害性構音障害学	3前	1			1						
	運動障害性構音障害学	3後	1			1			1			
	音声障害学	3前	1				1					
	摂食・嚥下障害学Ⅰ(理論)	3前	1				1					
	摂食・嚥下障害学Ⅱ(治療)	3後	1				1		1			
	言語聴覚障害学研究法	3前		2		1						
	言語聴覚障害基礎演習	3後	1			2	2	1	5			
	言語聴覚療法特論	4後	2			2	2	1	5			
	コミュニケーション障害演習	1後	1			2	2	1	5			
	コミュニケーション技能演習	2前	1			2	2	1	5			
	卒業研究	4後		4		2	2	1	5			
	臨床実習Ⅰ(基礎)	3後	2			2	2	1	5			
	臨床実習Ⅱ(総合)	4前	12			2	2	1	5			
小計(37科目)	-	49	6	0	2	2	1	5	0	0		
合計(115科目)	-	105	49	0	5	1	2	5	0	47		
卒業要件及び履修方法												
必修105単位(総合教育科目14単位、専門基礎科目42単位、専門科目49単位) 総合教育科目のうち、人間系から4単位以上選択、社会系と自然・情報系合わせて4単位以上選択、外国語から※科目から3単位以上選択。 専門基礎科目と専門科目合わせて選択8単位以上。 合計124単位以上												
※2 日本語科目 外国人留学生を対象とし、「日本語Ⅰ」～「日本語Ⅳ」(計4単位)必修科目として開講する。(留学生については「韓国語」「中国語」の履修は要しない) また、外国語は「医学英語Ⅰ」、「医学英語Ⅱ」、「英会話」を必修とする。 合計126単位以上												
(履修科目の登録の上限:49単位(年間))												

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	言語聴覚障害学概論	1後	1			1						
	言語聴覚障害学診断学	3前	1			2	2	1	5			
	失語症・高次脳機能障害	2前	1			1		1				
	失語症・高次脳機能障害	2後	1			1		1				
	失語症学Ⅰ(評価・診断)	3前	1					1	1			
	失語症学Ⅱ(治療)	3後	1					1	1			
	失語症・高次脳機能障害	3前	1			1		1				
	高次脳機能障害学	3前	1			1						
	言語発達障害学総論	2前	1			1		1				
	言語発達障害学各論	2後	1			1		1				
	言語発達障害学Ⅰ(評価)	3前	1			1		1				
	言語発達障害学Ⅰ演習	3前	1			1		1				
	言語発達障害学Ⅱ(指導)	3後	1			1		1				
	言語発達障害学Ⅱ演習	3後	1			1		1				
	聴覚障害学総論	2前	1			1		1				
	聴覚機能評価学	2後	2					1				
	聴覚補償論(補聴器・人工内耳)	3前	1					1				
	小児聴覚障害学Ⅰ(評価)	3前	1			1						
	小児聴覚障害学Ⅱ(指導)	3後	1			1						
	成人聴覚障害学(二重障害)	3後	1					1				
	発声発語障害学総論	2前	1			1						
	流暢性障害学	2後	1					1				
	機能的構音障害学	2後	1					1				
	器質性構音障害学	3前	1					1				
	運動障害性構音障害学	3前	1			1						
	運動障害性構音障害学	3後	1			1			1			
	音声障害学	3前	1				1					
	摂食・嚥下障害学Ⅰ(理論)	3前	1				1					
	摂食・嚥下障害学Ⅱ(治療)	3後	1				1		1			
	言語聴覚障害学研究法	3前		2		1						
	言語聴覚障害基礎演習	3後	1			2	2	1	5			
	言語聴覚療法特論	4後	2			2	2	1	5			
	コミュニケーション障害演習	1後	1			2	2	1	5			
	コミュニケーション技能演習	2前	1			2	2	1	5			
	卒業研究	4後		4		2	2	1	5			
	臨床実習Ⅰ(基礎)	3後	2			2	2	1	5			
	臨床実習Ⅱ(総合)	4前	12			2	2	1	5			
小計(37科目)	-	49	6	0	2	2	1	5	0	0		
合計(115科目)	-	105	64	0	5	1	2	5	0	47		
卒業要件及び履修方法												
必修105単位(総合教育科目14単位、専門基礎科目42単位、専門科目49単位) 総合教育科目のうち、人間系から4単位以上選択、社会系と自然・情報系合わせて4単位以上選択、外国語から※科目から3単位以上選択。 専門基礎科目と専門科目合わせて選択8単位以上。 合計124単位以上												
※2 日本語科目 外国人留学生を対象とし、「日本語Ⅰ」～「日本語Ⅳ」(計4単位)必修科目として開講する。(留学生については「韓国語」「中国語」の履修は要しない) また、外国語は「医学英語Ⅰ」、「医学英語Ⅱ」、「英会話」を必修とする。 合計126単位以上												
(履修科目の登録の上限:49単位(年間))												

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

--

【令和元年度】

--

【令和2年度】

--

【令和3年度】

--

【令和4年度】

--

【令和5年度】

(記入例) ・◇◇の理由により、「英語Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。 ・△△の理由により、「〇〇学入門」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。 ・〇〇の理由により、「〇〇学」の名称を「〇〇学Ⅰ」に変更。
--

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
79 科目	32 科目	0 科目	111 科目	79 科目 [0]	41 科目 [9]	0 科目 [0]	120 科目 [9]	本学の既存学部学科がカリキュラム変更を行ったことに伴い、大学内の整合性をとるため、総合教育科目の設定を他の学科に合わせたための措置

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{111} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考					
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	その他は本館敷地 11,558㎡のうち福祉施設相当分					
	校舎敷地	21,415.83 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	21,415.83 ㎡						
	運動場用地	745.71 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	745.71 ㎡						
	小 計	22,161.54 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	22,161.54 ㎡						
	そ の 他	532.00 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	532.00 ㎡						
	合 計	22,693.54 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	22,693.54 ㎡						
(2) 校 舎	専 用	21,130.55㎡ (21,130.55㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	21,130.55㎡ (21,130.55㎡)	令和3年4月1日より、 国際医療福祉大学から 福岡国際医療福祉大学 へ設置者変更。					
	共用										
(3) 教 室 等	講 義 室	22 室	演 習 室	17 室	実験実習室	31 室	情報処理学習施設	2 室 (補助職員 2 人)	語学学習施設	(2) 室 (補助職員 (2) 人)	語学学習施設は情報処理 学習施設を兼ねる。
	新設学部等の名称		室 数		大学全体						
(4) 専任教員研究室		医療学部 言語聴覚学科		個室51室、共同14室		計65室		室		大学全体	
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	学部学科単位で特定不能なため、大学全体の数			
		〔うち外国書〕冊	〔うち外国書〕種								
	言語聴覚学科	31,400 [1,070] (28,713 [950])	6,200 [4,100] (6,133 [4,081])	5,900 [4,100] (5,830 [4,024])	2,100 (2,021)	5,500 (5,111)	40 (40)				
	計	31,400 [1,070] (28,713 [950])	6,200 [4,100] (6,133 [4,081])	5,900 [4,100] (5,830 [4,024])	2,100 (2,021)	5,500 (5,111)	40 (40)				
(6) 図 書 館	面 積	780.71 ㎡	閱 覧 座 席 数	276 席	収 納 可 能 冊 数	32,000 冊	大学全体				
	面 積	1,245.37 ㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要								
(7) 体 育 館	テニスコート兼フットサルコート 1面 (745.71㎡)										
	(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャーナル、データベースの整備費(運用コスト含む)を含む		
教員1人当り研究費等		400千円	400千円	図書購入費	10,000千円	8,300千円	8,300千円				
共同研究費等		1,000千円	1,000千円	設備購入費	1,500千円	0千円	0千円				
学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入雑収入ほか									

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を**赤字で見え消し**修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に**赤字**で記入してください。
なお、昨年度の報告において**赤字で見え消し**した部分については、**見え消しのまま黒字**にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	福岡国際医療福祉大学										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	0	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	0	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考					
医療学部	4	160	-	640	-	1.06	-	1.08	1.05	-	平成31	-						
理学療法学科	4	40	-	160	学士(理学療法学)	1.06	-	1.11	1.07	-	平成31	福岡市早良区百道浜3-6-40						
作業療法学科	4	40	-	160	学士(作業療法学)	1.09	-	1.09	1.06	-	平成31	同上						
視能訓練学科	4	40	-	160	学士(視能訓練学)	1.10	-	1.04	1.03	-	平成31	同上						
言語聴覚学科	4	40	-	160	学士(言語聴覚学)	1.02	-	1.02	-	-	令和5	同上						
看護学部	4	100	0	400	-	1.09	-	1.06	1.06	-	平成21	福岡市早良区百道浜1-7-4	令和3年4月1日より、国際医療福祉					
看護学科	4	100	0	400	学士(看護学)	1.09	-	1.06	1.06	-	平成21	同上	大学から福岡国際医療福祉大学へ設置者変更。併せて福岡看護学部					
大学全体	4	260	0	1040	-	-	-	-	-	-	-	-	から看護学部へ学部名称変更					

5 教員組織の状況

<〇〇学部 △△学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 学科長	爲数 哲司 (61) <令和5年4月> 博士(人間科学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座 言語聴覚障害診断学 発声発語障害学総論 運動障害性構音障害学Ⅰ(理論) 運動障害性構音障害学Ⅱ(評価 診断・治療) 言語聴覚障害学研究法 言語聴覚障害基礎演習 言語聴覚療法特論 コミュニケーション障害演習 コミュニケーション技能演習 卒業研究 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(総合)
専	教授	堀川 悦夫 (67) <令和5年4月> 博士(学術)、博士(医学)
		心理学 カウンセリング論 臨床心理学 生涯発達心理学 学習心理学 認知心理学 心理測定法 心理測定法演習

【令和5年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 学科長	爲数 哲司 (62) <令和5年4月> 博士(人間科学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座 リハビリテーション概論 言語聴覚障害診断学 発声発語障害学総論 運動障害性構音障害学Ⅰ(理論) 運動障害性構音障害学Ⅱ(評価 診断・治療) 言語聴覚障害学研究法 言語聴覚障害基礎演習 言語聴覚療法特論 コミュニケーション障害演習 コミュニケーション技能演習 卒業研究 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(総合)
専	教授	堀川 悦夫 (68) <令和5年4月> 博士(学術)、博士(医学)
		心理学 カウンセリング論 臨床心理学 学習心理学 認知心理学 心理測定法 心理測定法演習
兼任	講師	井上 久美子 (44) <令和5年4月> 博士(心理学)
		生涯発達心理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	尾籠 晃司 (63) <令和5年4月> 博士(医学)
		精神医学 児童精神医学
専	教授	平島 ユイ子 (60) <令和6年4月> 博士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携論 言語発達学 音声音響学 言語聴覚障害診断学 言語発達障害学総論 言語発達障害学各論 言語発達障害学Ⅰ(評価・診断) 言語発達障害学Ⅰ演習(評価・診断) 言語発達障害学Ⅱ(指導) 言語発達障害学Ⅱ演習(指導) 小児聴覚障害学Ⅰ(評価・診断) 小児聴覚障害学Ⅱ(指導) 言語聴覚障害基礎演習 言語聴覚療法特論 コミュニケーション障害演習 コミュニケーション技能演習 卒業研究 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(総合)
兼任	講師	平島 ユイ子 (60) <令和5年4月> 博士(保健医療学)
		言語発達学 コミュニケーション障害演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	尾籠 晃司 (64) <令和5年4月> 博士(医学)
		精神医学 児童精神医学
専	教授	平島 ユイ子 (61) <令和6年4月> 博士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携論 言語発達学 音声音響学 言語聴覚障害診断学 言語発達障害学総論 言語発達障害学各論 言語発達障害学Ⅰ(評価・診断) 言語発達障害学Ⅰ演習(評価・診断) 言語発達障害学Ⅱ(指導) 言語発達障害学Ⅱ演習(指導) 小児聴覚障害学Ⅰ(評価・診断) 小児聴覚障害学Ⅱ(指導) 言語聴覚障害基礎演習 言語聴覚療法特論 コミュニケーション障害演習 コミュニケーション技能演習 卒業研究 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(総合)
兼任	講師	今村 亜子 (58) <令和5年4月> 博士(文学)
		言語発達学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	澤津橋 基広 (53) <令和5年4月> 博士(医学)
		耳鼻咽喉科学 聴覚医学
専	准教授	石川 幸伸 (40) <令和5年4月> 博士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク 音声言語医学 神経心理学 言語聴覚障害学概論 言語聴覚障害学診断学 失語症・高次脳機能障害学総論Ⅰ(基礎) 失語症・高次脳機能障害学総論Ⅱ(展開) 失語症・高次脳機能障害学演習 高次脳機能障害学 音声障害学 言語聴覚障害基礎演習 言語聴覚療法特論 コミュニケーション障害演習 コミュニケーション技能演習 卒業研究 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(総合)
専	准教授	大内田 博文 (42) <令和8年4月> 博士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク 言語聴覚障害学 摂食・嚥下障害学Ⅰ(理論・評価診断) 摂食・嚥下障害学Ⅱ(治療) 言語聴覚障害基礎演習 言語聴覚療法特論 コミュニケーション障害演習 コミュニケーション技能演習 卒業研究 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(総合)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	澤津橋 基広 (54) <令和5年4月> 博士(医学)
		耳鼻咽喉科学 聴覚医学
専	准教授	石川 幸伸 (41) <令和5年4月> 博士(保健医療学)
		ボランティア実践 雑談と傾聴-話す力と訊く力- 海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク 音声言語医学 神経心理学 言語聴覚障害学診断学 失語症・高次脳機能障害学総論Ⅰ(基礎) 失語症・高次脳機能障害学総論Ⅱ(展開) 失語症・高次脳機能障害学演習 高次脳機能障害学 音声障害学 言語聴覚障害基礎演習 言語聴覚療法特論 コミュニケーション障害演習 コミュニケーション技能演習 卒業研究 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(総合)
専	准教授	大内田 博文 (43) <令和8年4月> 博士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク 言語聴覚障害学 摂食・嚥下障害学Ⅰ(理論・評価診断) 摂食・嚥下障害学Ⅱ(治療) 言語聴覚障害基礎演習 言語聴覚療法特論 コミュニケーション障害演習 コミュニケーション技能演習 卒業研究 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(総合)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	大内田 博文 (42) <令和8年4月> 博士(保健医療学)
		摂食・嚥下障害学Ⅰ(理論・評価診断) 摂食・嚥下障害学Ⅱ(治療)
専	講師	岡田 理恵子 (43) <令和8年4月> 博士(文学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク 言語学Ⅰ(基礎) 言語学Ⅱ(発展) 言語聴覚障害診断学 失語症学Ⅰ(評価・診断) 失語症学Ⅱ(治療) 言語聴覚障害基礎演習 言語聴覚療法特論 コミュニケーション障害演習 コミュニケーション技能演習 卒業研究 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(総合)
兼任	講師	岡田 理恵子 (43) <令和5年4月> 博士(文学)
		言語学Ⅰ(基礎) 言語学Ⅱ(発展) 失語症学Ⅰ(評価・診断) 失語症学Ⅱ(治療)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	大内田 博文 (43) <令和8年4月> 博士(保健医療学)
		摂食・嚥下障害学Ⅰ(理論・評価診断) 摂食・嚥下障害学Ⅱ(治療)
専	講師	岡田 理恵子 (44) <令和8年4月> 博士(文学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク 言語学Ⅰ(基礎) 言語学Ⅱ(発展) 言語聴覚障害診断学 失語症学Ⅰ(評価・診断) 失語症学Ⅱ(治療) 言語聴覚障害基礎演習 言語聴覚療法特論 コミュニケーション障害演習 コミュニケーション技能演習 卒業研究 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(総合)
兼任	講師	岡田 理恵子 (44) <令和5年4月> 博士(文学)
		言語学Ⅰ(基礎) 言語学Ⅱ(発展) 失語症学Ⅰ(評価・診断) 失語症学Ⅱ(治療)
専	講師	福井 恵子 (40) <令和5年4月> 博士(保健医療学)
		言語聴覚障害学概論 聴覚障害学総論 聴覚機能評価学 小児聴覚障害学 言語聴覚障害診断学 言語聴覚障害基礎演習 言語聴覚療法特論 コミュニケーション技能演習 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(総合)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	豊嶋 明子 (49) <令和6年4月> 修士(言語聴覚学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク 言語聴覚障害診断学 言語発達障害学総論 言語発達障害学各論 言語発達障害学Ⅰ(評価・診 断) 言語発達障害学Ⅰ演習(評価・診 断) 言語発達障害学Ⅱ(指導) 言語発達障害学Ⅱ演習(指導) 流暢性障害学 機能性構音障害学 器質性構音障害学 言語聴覚障害基礎演習 言語聴覚療法特論 コミュニケーション障害演習 コミュニケーション技能演習 卒業研究 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(総合)
兼任		豊嶋 明子 (49) <令和6年4月> 修士(言語聴覚学)
		コミュニケーション障害演習

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	豊嶋 明子 (50) <令和6年4月> 修士(言語聴覚学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク 言語聴覚障害診断学 言語発達障害学総論 言語発達障害学各論 言語発達障害学Ⅰ(評価・診 断) 言語発達障害学Ⅰ演習(評価・診 断) 言語発達障害学Ⅱ(指導) 言語発達障害学Ⅱ演習(指導) 流暢性障害学 機能性構音障害学 器質性構音障害学 言語聴覚障害基礎演習 言語聴覚療法特論 コミュニケーション障害演習 コミュニケーション技能演習 卒業研究 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(総合)
兼任		豊嶋 明子 (50) <令和6年4月> 修士(言語聴覚学)
		コミュニケーション障害演習

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	吉永 明史 (44) <令和6年4月> 修士(言語聴覚学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク リハビリテーション概論 リハビリテーション医学 言語聴覚障害診断学 運動障害性構音障害学Ⅱ(評価 診断・治療) 摂食・嚥下障害学Ⅱ(治療) 言語聴覚障害基礎演習 言語聴覚療法特論 コミュニケーション障害演習 コミュニケーション技能演習 卒業研究 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(総合)
兼任		吉永 明史 (44) <令和5年4月> 修士(言語聴覚学)
		リハビリテーション概論 リハビリテーション医学 コミュニケーション障害演習

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	吉永 明史 (45) <令和6年4月> 修士(言語聴覚学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク リハビリテーション医学 言語聴覚障害診断学 運動障害性構音障害学Ⅱ(評価 診断・治療) 摂食・嚥下障害学Ⅱ(治療) 言語聴覚障害基礎演習 言語聴覚療法特論 コミュニケーション障害演習 コミュニケーション技能演習 卒業研究 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(総合)
兼任		吉永 明史 (45) <令和6年4月> 修士(言語聴覚学)
		コミュニケーション障害演習
兼任	講師	浅見 豊子 (62) <令和5年4月> 医学博士
		リハビリテーション医学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	西田 哲司 (43) <令和8年4月> 修士(医療福祉教育・管理学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク 中枢神経機能学 言語聴覚障害診断学 失語症・高次脳機能障害学総論Ⅰ(基礎) 失語症・高次脳機能障害学総論Ⅱ(展開) 言語聴覚障害基礎演習 言語聴覚療法特論 コミュニケーション障害演習 コミュニケーション技能演習 卒業研究 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(総合)
兼任	講師	西田 哲司 (43) <令和5年4月> 修士(医療福祉教育・管理学)
		中枢神経機能学 失語症・高次脳機能障害学総論Ⅰ(基礎) 失語症・高次脳機能障害学総論Ⅱ(展開)
専	助教	池下 博紀 (35) <令和5年4月> 修士(言語聴覚学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク 聴覚医学 言語聴覚障害診断学 失語症学Ⅰ(評価・診断) 失語症学Ⅱ(治療) 失語症・高次脳機能障害学演習 聴覚機能評価学 言語聴覚障害基礎演習 言語聴覚療法特論 コミュニケーション障害演習 コミュニケーション技能演習 卒業研究 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(総合)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	西田 哲司 (44) <令和8年4月> 修士(医療福祉教育・管理学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク 中枢神経機能学 言語聴覚障害診断学 失語症・高次脳機能障害学総論Ⅰ(基礎) 失語症・高次脳機能障害学総論Ⅱ(展開) 言語聴覚障害基礎演習 言語聴覚療法特論 コミュニケーション障害演習 コミュニケーション技能演習 卒業研究 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(総合)
兼任	講師	西田 哲司 (44) <令和5年4月> 修士(医療福祉教育・管理学)
		中枢神経機能学 失語症・高次脳機能障害学総論Ⅰ(基礎) 失語症・高次脳機能障害学総論Ⅱ(展開)
専	助教	池下 博紀 (36) <令和5年4月> 修士(言語聴覚学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク 言語聴覚障害学概論 聴覚医学 言語聴覚障害診断学 失語症学Ⅰ(評価・診断) 失語症学Ⅱ(治療) 失語症・高次脳機能障害学演習 聴覚機能評価学 言語聴覚障害基礎演習 言語聴覚療法特論 コミュニケーション障害演習 コミュニケーション技能演習 卒業研究 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(総合)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	和野 紗央里 (32) <令和8年4月> 学士(芸術工学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク 聴覚心理学 言語聴覚障害診断学 聴覚障害学総論 聴覚補償論(補聴器・人工内耳など) 成人聴覚障害学(二重障害を含む) 言語聴覚障害基礎演習 言語聴覚療法特論 コミュニケーション障害演習 コミュニケーション技能演習 卒業研究 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(総合)
兼任	講師	和野 紗央里 (32) <令和5年4月> 学士(芸術工学)
		聴覚心理学 聴覚障害学総論 聴覚補償論(補聴器・人工内耳など) 成人聴覚障害学(二重障害を含む)
兼任	教授	菅原 洋子 (73) <令和5年4月> 博士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅰ(講義) 海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座
兼任	准教授	多賀 誠 (52) <令和5年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	和野 紗央里 (32) <令和8年4月> 修士(言語聴覚学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク 聴覚心理学 言語聴覚障害診断学 聴覚障害学総論 聴覚補償論(補聴器・人工内耳など) 成人聴覚障害学(二重障害を含む) 言語聴覚障害基礎演習 言語聴覚療法特論 コミュニケーション障害演習 コミュニケーション技能演習 卒業研究 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(総合)
兼任	講師	和野 紗央里 (33) <令和5年4月> 修士(言語聴覚学)
		聴覚心理学 聴覚障害学総論 聴覚補償論(補聴器・人工内耳など) 成人聴覚障害学(二重障害を含む)
兼任	准教授	多賀 誠 (53) <令和5年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅰ(講義) 海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	小牧 元 (70) <令和5年4月> 医学博士
		生命倫理
兼任	教授	大池 美也子 (70) <令和6年4月> 博士(教育学)
		関連職種連携論
兼任	教授	新居見 和彦 (68) <令和6年4月> 博士(医学)
		小児科学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	土持 貴志 (32) <令和5年4月> 修士(文学)
		哲学 倫理学 生命倫理
兼任	教授	高野 政子 (66) <令和6年4月> 博士(教育学)
		関連職種連携論
兼任	教授	楠葉 洋子 (69) <令和5年4月> 博士(医学)
		死生学-死を通して生を考える-

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	森 望 (68) <令和5年4月> 博士(医学)
		解剖学 生理学
兼任	講師	永倉 透記 (56) <令和5年4月> 博士(薬学)
		基礎薬理学 栄養学
兼任	教授	財津 裕一 (68) <令和5年4月> 博士(医学)
		社会保障制度論 保健医療福祉制度論 公衆衛生学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	濱本 邦洋 (72) <令和6年4月> 博士(医学)
		小児科学
兼任	教授	森 望 (69) <令和5年4月> 博士(医学)
		生化学 解剖学 生理学 基礎薬理学
兼任	講師	近江 雅代 (51) <令和5年4月> 博士(医学)
		栄養学
兼任	教授	財津 裕一 (69) <令和5年4月> 博士(医学)
		社会保障制度論 公衆衛生学
兼任	講師	辻 雅善 (41) <令和5年4月> 博士(医学)
		保健医療福祉制度論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	飛松 省三 (67) <令和6年4月> 医学博士
		臨床神経学
兼任	教授	吉富 健志 (66) <令和6年4月> 医学博士
		大学入門講座
兼任	教授	柊 幸伸 (62) <令和5年4月> 博士(保健医療学)
		大学入門講座 関連職種連携論
兼任	教授	北島 栄二 (55) <令和5年4月> 博士(医学)
		大学入門講座
兼任	教授	丹羽 敦 (58) <令和5年4月> 修士(保健医療学)
		関連職種連携論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	飛松 省三 (68) <令和6年4月> 医学博士
		臨床神経学
兼任	教授	吉富 健志 (67) <令和6年4月> 医学博士
		大学入門講座
兼任	教授	森田 正治 (58) <令和5年4月> 博士(医学)
		医学・医療史 大学入門講座 関連職種連携論
兼任	教授	丹羽 敦 (59) <令和5年4月> 修士(保健医療学)
		日本近現代史 大学入門講座 関連職種連携論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	田川 辰也 (57) <令和5年4月> 博士(医学)
		臨床医学概論 病理学 内科学Ⅰ(基礎) 内科学Ⅱ(臨床)
兼任	講師	池田 俊也 (57) <令和7年4月> MPH(公衆衛生学修士) 博士(医学)
		リスクマネジメント論
兼任	准教授	松藤 佳名子 (59) <令和7年4月> 修士(文学)
		関連職種連携ワーク
兼任	准教授	森山 ますみ (58) <令和6年4月> 博士(看護学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	田川 辰也 (58) <令和5年4月> 博士(医学)
		病理学 内科学Ⅰ(基礎) 内科学Ⅱ(臨床)
兼任	教授 学長	原 英夫 (65) <令和5年4月> 博士(医学)
		リスクマネジメント論 臨床医学概論
兼任	教授	川口 賀津子 (57) <令和5年4月> 博士(看護学)
		メディカルマナー入門
兼任	准教授	松藤 佳名子 (60) <令和7年4月> 修士(文学)
		医療福祉教養講義 関連職種連携ワーク
兼任	准教授	森山 ますみ (59) <令和6年4月> 博士(看護学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	橋本 勇希 (36) <令和7年4月> 博士(医学)
		関連職種連携ワーク
兼任	講師	佐々木 信 (51) <令和6年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	講師	高木 良重 (49) <令和6年4月> 修士(看護学)
		関連職種連携論
兼任	講師	吉村 美香 (48) <令和6年4月> 博士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	講師	池田 拓郎 (43) <令和6年4月> 博士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	講師	山之口 稔隆 (42) <令和5年4月> 修士(医療経営管理学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 統計学 医療とICT

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	橋本 勇希 (37) <令和7年4月> 博士(医学)
		関連職種連携ワーク
兼任	講師	佐々木 信 (52) <令和6年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	講師	高木 良重 (50) <令和6年4月> 修士(看護学)
		関連職種連携論
兼任	講師	吉村 美香 (49) <令和6年4月> 博士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	講師	池田 拓郎 (44) <令和6年4月> 博士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	講師	山之口 稔隆 (43) <令和5年4月> 修士(医療経営管理学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) データサイエンス 医療とICT

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	吉塚 久記 (41) <令和7年4月> 博士(医学)
		関連職種連携ワーク
兼任	講師	中藺 寿人 (40) <令和7年4月> 博士(医学)
		関連職種連携ワーク
兼任	講師	光武 翼 (37) <令和6年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	講師	佐野 伸之 (35) <令和7年4月> 博士(保健学)
		関連職種連携ワーク
兼任	助教	木村 まり子 (51) <令和7年4月> 修士(保健医療学)
		関連職種連携ワーク
兼任	助教	王 美蘭 (48) <令和5年4月> 博士(法学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 法学 中国語

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	吉塚 久記 (42) <令和7年4月> 博士(医学)
		関連職種連携ワーク
兼任	講師	中藺 寿人 (41) <令和5年4月> 博士(医学)
		宗教学 関連職種連携ワーク
兼任	講師	光武 翼 (38) <令和6年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	講師	佐野 伸之 (36) <令和7年4月> 博士(保健学)
		関連職種連携ワーク
兼任	助教	木村 まり子 (52) <令和7年4月> 修士(保健医療学)
		関連職種連携ワーク

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	今井 竜也 (47) <令和5年4月> 博士(学術)
		社会学
兼任	助教	潮井川 修一 (44) <令和6年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携論
兼任	助教	吉田 亮平 (42) <令和7年4月> 修士(保健医療学)
		関連職種連携ワーク
兼任	講師	吉川 卓也 (62) <令和5年4月> 博士(経済学)
		経済学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	王 美蘭 (49) <令和5年4月> 博士(法学)
		中国語
兼任	講師	今井 竜也 (48) <令和5年4月> 博士(学術)
		社会学 法学
兼任	助教	潮井川 修一 (45) <令和6年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携論
兼任	助教	谷口 隆憲 (40) <令和5年4月> 博士(保健医療学)
		大学入門講座
兼任	講師	吉川 卓也 (63) <令和5年4月> 博士(経済学)
		経済学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	梶岡 俊一 (61) <令和6年4月> 医学博士
		臨床歯科医学 口腔外科学
兼任	講師	飯田 史也 (60) <令和5年4月> 博士(教育学)
		教育学
兼任	講師	山本 秀也 (60) <令和5年4月> 文学士
		アジア比較文化論
兼任	講師	後藤 純信 (60) <令和6年4月> 博士(医学)
		救急医学
兼任	講師	世波 貴子 (60) <令和5年4月> 修士(生物学)
		生物学
兼任	講師	Law Ching Keed (Manuel) (59) <令和5年4月> 社会心理学修士
		医学英語Ⅱ 英会話

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	梶岡 俊一 (62) <令和6年4月> 医学博士
		臨床歯科医学 口腔外科学
兼任	講師	飯田 史也 (61) <令和5年4月> 博士(教育学)
		教育学
兼任	講師	山本 秀也 (61) <令和5年4月> 文学士
		アジア比較文化論
兼任	講師	後藤 純信 (61) <令和6年4月> 博士(医学)
		救急医学
兼任	講師	世波 貴子 (61) <令和5年4月> 修士(生物学)
		生物学
兼任	講師	Law Ching Keed (Manuel) (60) <令和5年4月> 社会心理学修士
		医学英語Ⅱ 英会話

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	安本 誠一 (55) <令和5年4月> 博士(理学)
		物理学
兼任	講師	高原 和子 (55) <令和5年4月> 修士(体育学)
		健康科学理論 健康スポーツ実践
兼任	講師	村木 里志 (52) <令和5年4月> 博士(学術)
		人間工学
兼任	講師	岸 拓弥 (49) <令和6年4月> 博士(医学)
		老年学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	安本 誠一 (56) <令和5年4月> 博士(理学)
		物理学
兼任	講師	高原 和子 (56) <令和5年4月> 修士(体育学)
		健康科学理論
兼任	講師	藤木 賢二 (53) <令和5年4月> 修士(体育学)
		健康スポーツ実践
兼任	講師	岸田 文 (28) <令和5年4月> 博士(感性学)
		人間工学
兼任	講師	岸 拓弥 (50) <令和6年4月> 博士(医学)
		老年学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	伊藤 豪 (49) <令和5年4月> 修士(経済学)
		国際医療福祉論
兼任	講師	黄 慶旭 (48) <令和5年4月> 修士(教育学)
		韓国語
兼任	講師	増田 正彦 (46) <令和5年4月> 博士(文学)
		基礎音声学 音声学
兼任	講師	衛藤 明子 (44) <令和7年4月> 博士(医学)
		形成外科学
兼任	講師	大谷 久也 (45) <令和5年4月> 修士(健康科学)
		ケアマネジメント論
兼任	講師	田原 直美 (45) <令和5年4月> 修士(人間環境学)
		コミュニケーション概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	伊藤 豪 (50) <令和5年4月> 修士(経済学)
		国際医療福祉論
兼任	講師	黄 慶旭 (49) <令和5年4月> 修士(教育学)
		韓国語
兼任	講師	増田 正彦 (47) <令和5年4月> 博士(文学)
		基礎音声学 音声学
兼任	講師	衛藤 明子 (45) <令和7年4月> 博士(医学)
		形成外科学
兼任	講師	大谷 久也 (46) <令和5年4月> 修士(健康科学)
		ケアマネジメント論
兼任	講師	田原 直美 (46) <令和5年4月> 修士(人間環境学)
		コミュニケーション概論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	Jenny Anne Mcdonald (45) <令和5年4月> 学士(文学)
		医学英語 I
兼任	講師	澤 真澄 (42) <令和5年4月> 修士(保健学)
		日本語 I 日本語 II 日本語 III 日本語 IV
兼任	講師	安河内 敬太 (33) <令和5年4月> 博士(学術)
		文学
兼任	講師	松岡 佐智 (33) <令和5年4月> 博士(地域研究)
		ボランティア論
兼任	講師	原北 祥悟 (31) <令和5年4月> 修士(教育学)
		教育評価学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	Jenny Anne Mcdonald (46) <令和5年4月> 学士(文学)
		医学英語 I
兼任	講師	澤 真澄 (43) <令和5年4月> 修士(保健学)
		日本語 I 日本語 II 日本語 III 日本語 IV
兼任	講師	安河内 敬太 (34) <令和5年4月> 博士(学術)
		文学
兼任	講師	松岡 佐智 (34) <令和5年4月> 博士(地域研究)
		ボランティア論
兼任	講師	原北 祥悟 (32) <令和5年4月> 修士(教育学)
		教育方法論

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

(記入例)

・◎◎教授就任辞退により、●●教授に変更。平成29年10月AC教員審査済み。

【令和元年度】

(記入例)

特になし。

【令和2年度】

(記入例)

・××の理由により、△△准教授の就任が令和2年4月から令和2年10月に遅延。

【令和3年度】

(記入例)

・□□講師就任辞退。後任未定であるが、令和3年10月から専任教員採用予定で公募中。
・■講師辞任により、◆講師に変更。

【令和4年度】

(記入例)

・令和3年10月◇◇講師就任。令和3年6月教員審査済み。

【令和5年度】

・令和5年4月、福井恵子講師(専任)就任(届出設置のため教員審査省略)。
・「教育評価学」は令和4年度からの本学全体の新カリキュラム導入に伴い「教育方法論」に名称を変更。
・本学全体の新カリキュラム導入に伴い、「死生学-死を通して生を考える-」楠葉洋子教授(兼担)、「雑談と傾聴-話す力と訊く力-」石川幸伸准教授(専任)、「日本近現代史」丹羽教授(兼担)、「宗教学」中園寿人講師(兼担)、「ボランティア実践」石川幸伸准教授(専任)、「生化学」森望教授(兼担)、「医学・医療史」森田正治教授(兼担)、「メディカルマナー入門」川口賀津子教授(兼担)、「医療福祉教養講義」松藤佳名子准教授(兼担)を追加した。
・「統計学」は、本学全体の新カリキュラム導入に伴い、「データサイエンス」に名称を変更。
・「生涯発達心理学」は、専門性と科目数負担を鑑みて、堀川悦夫教授(専任)から井上久美子講師(兼任)に変更。
・「海外保健福祉事情Ⅰ(講義)」は、菅原洋子教授(兼担)退職に伴い、多賀誠准教授(兼担)に変更。
・「海外保健福祉事情Ⅱ(実習)」の菅原洋子教授(兼担)は、本人退職に伴い、多賀誠准教授(兼担)に変更。
・「大学入門講座」の海外交流担当箇所については、菅原洋子教授(兼担)退職に伴い、多賀誠准教授(兼担)に変更。
・「大学入門講座」の終幸伸教授(兼担)担当箇所については、理学療法学科長の交代に伴い、森田正治教授(兼担)に変更。
・「大学入門講座」の北島栄二教授(兼担)担当箇所については、作業療法学科長の交代に伴い、丹羽教授(兼担)に変更。
・「健康スポーツ実践」は、本務校の都合により、高原和子講師(兼任)から藤木賢二講師(兼任)に変更。
・「生命倫理」は、小牧元教授(兼担)退職に伴い、土持貞志講師(兼任)に変更。
・「中国語」は、王美蘭助教(兼担)退職に伴い、本人が継続して兼任として担当。
・「法学」は、王美蘭助教(兼担)退職に伴い、今井竜也講師(兼任)に変更。
・「関連職種連携論」の看護師担当箇所については、大池美也子教授(兼担)退職および学科長交替に伴い、高野政子教授(兼担)に変更。
・「関連職種連携論」の理学療法士担当箇所については、終幸伸教授(兼担)の異動に伴い、森田正治教授(兼担)に変更。
・「関連職種連携ワーク」の吉田亮平助教(兼担)は本人都合により退職したが、グループ毎の指導であり、他の担当教員で補うことにより、学生の教育に支障はない。
・「リスクマネジメント論」は、専門性を鑑みて、池田俊也講師(兼任)から原英夫教授(兼担)に変更。
・「小児科学」は、新居見和彦教授(兼担)退職に伴い、濱本邦洋講師(兼任)に変更。
・「保健医療福祉制度論」は、専門性を鑑みて、財津裕一教授(兼担)から辻雅善講師(兼任)に変更。
・「栄養学」は、専門性を鑑みて、永倉透記講師(兼任)から近江雅代講師(兼任)に変更。
・「基礎薬理学」は、本務校の都合により、永倉透記講師(兼任)から森望教授(兼担)に変更。
・「人間工学」は、本務校の都合により、村木里志講師(兼任)から岸田文講師(兼任)に変更。
・「臨床医学概論」は、科目数負担を鑑みて、田川辰也教授(兼担)から原英夫教授(兼担)に変更。
・「言語発達学」は、本人の都合により担当が困難となったため、平島ユイ子教授(兼担、令和6年度より専任)から今村亜子講師(兼任)に変更。
・「リハビリテーション概論」は、専門性を鑑みて、吉永明史講師(兼任、令和5年度より専任助教)から為数哲司教授(専任)に変更。
・「言語聴覚障害学概論」は、専門性を鑑みることと担当科目付加の標準化を図り、石川幸伸准教授(専任)から福井恵子講師(専任)と池下博紀助教(専任)のオムニバス(一部共同)に変更。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織(学科連係課程実施学科)の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二(短期大学設置基準第三条の二)に基づく「連係協力学部等(連係協力学科)」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等(連係協力学科)ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
8	4
名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
 ・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
5	2	1	5	13	0	4	1	1	1	7	0
(4)	(1)	(0)	(1)	(6)	(0)						
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
5	2	2	5	14	0	5	2	2	5	14	0
[0]	[0]	[1]	[0]	[1]	[0]	[0]	[0]	[1]	[0]	[1]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ 1)
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ 1)

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	2	2
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{14}{13} = \boxed{107.69} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{2}{7} = \boxed{28.57} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
							必修	選択	自由	その他			
		該当なし		必修									
				選択									
				必修									
				自由									
				必修									
				必修									
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)				
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
							必修	選択	自由	その他			
		該当なし		必修									
				選択									
				必修									
				自由									
				必修									
				必修									
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)								
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)				
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)								
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)				
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{13} = 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
 ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし	必修							
			選択							
			必修							
			自由							
			必修							
			必修							
			必修							
合計			後任補充状況の集計							
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員について**、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和4年度)	該当なし	【認可】 遵守事項	
認 可 時 (令和4年度)	該当なし	【認可】 助言事項	
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和5年度)	該当なし	【AC】 指摘事項 (是正)	
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和5年度)	該当なし	【AC】 指摘事項 (改善)	
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和5年度)	該当なし	【AC】 指摘事項 (法令違 反)	
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和5年度)	該当なし	【AC】 指摘事項 (是正)	
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和5年度)	該当なし	【AC】 指摘事項 (改善)	

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4) (5)」と記載してください。
 - 【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<医療学部 言語聴覚学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
特になし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

平成31年に福岡国際医療福祉大学が開学以来、FD委員会を設置している。SDについてもこの委員会での審議に基づき、取組みを展開することとしている。
FD委員会は教務委員会と連携し、教育の質の向上を目指すものである。
令和3年度からは、より効果を高めることを目的とし、FD・SD推進委員会と組織を改編し、現在に至る。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和元年度はFD委員会を計4回（10月・11月・12月・1月）開催した。
令和2年度はFD委員会を計9回（5月・6月・7月・9月・10月・12月・1月・2月・3月）開催した。
令和3年度はFD・SD推進委員会を計10回（5月・6月・7月・9月・10月・11月・12月・1月・2月・3月）開催した。
令和4年度はFD・SD推進委員会を計11回（4月・5月・6月・7月・9月・10月・11月・12月・1月・2月・3月）開催した。各学科から1名ずつ選出された委員の参加状況は、毎回全員参加であった。

c 委員会の審議事項等

- ・ 本学のグッドティーチング賞の要項整備と実施について
- ・ 本学のFD・SD研修会について
- ・ 本年度のFD及びSD活動の基本方針について
- ・ 授業評価アンケートについて
- ・ 授業方法についての研究会について

② 実施状況

a 実施内容

オンラインを含め、年に4回のFD研修（全教員の参加を義務付ける。）開催のほか、テーマを設定した上で全教職員によるFD・SD研修会を開催した（以下、令和4年度、本学科開設前年度分）。

- ・ 第1回 第1回教員研修会「いまどきの大学生に対する授業展開のヒント～教育心理学からの視点～」
（講師：国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科 鶴田利郎講師・講演と質疑オンライン、参加者討論対面）
- ・ 第2回 第2回教員研修会「現場で役立つ教える技術」
（講師：国際医療福祉大学福岡保健医療学部理学療法学科 堀本ゆかり教授 講演と質疑オンライン、参加者討論対面）
- ・ 第3回 第3回教員研修会「授業設計（大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部）」
（Youtubeによるeラーニング教材「ドラマFD」視聴後、参加者はオンラインでディスカッション）
- ・ 第4回 第4回教員研修会「2022年度グッドティーチング賞授賞式・ミニ講義」

b 実施方法

- ・FD研修会を開催し、教育内容及び教育方法の向上の研修を行う。
- ・教務委員会で適正な成績評価基準の在り方等を検討、実施し、FD委員会で検証する。
- ・学外で開催されるFD研修会に参加した教員の知見やオンライン上で得られたFDに係る知見を教授会、教務委員会等で報告し情報共有を図る。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

【令和4年度（開学前年度）】

- ・第1回（令和4年7月25日） 国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科鶴田利郎講師より、教育心理学の視点から、現代の大学生に対する授業展開のヒントについて講演があった。（参加状況：42名/71名、出席率59.2%）
- ・第2回（令和4年10月27日） 国際医療福祉大学福岡保健医療学部理学療法学科堀本ゆかり教授より、教育学の視点に基づく知見から、理学療法の実践に関する講演があった。（参加状況：62名/73名、出席率84.9%）
- ・第3回（令和4年12月19日） 授業設計（大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部作成ドラマFD）Youtube動画視聴後、シラバスの設計を通して講義内容の再構築を図ることや学修成果の可視化など、授業改善に向けた具体的な活用例について紹介があった。（参加状況：66名/73名、出席率90.4%）
- ・第4回（令和5年3月20日） グッドティーチング賞選考発表と表彰式、および選考された3名の教員によるミニ講義を実施した。（参加状況：72名/73名、出席率98.6%）
年間通した延べ人数（最低1度は出席）72名/73名 年間出席率98.6%

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD研修を通じて共有した優れた教育実践を授業改善や学生支援に活用する。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

毎学期の終盤にすべての授業科目で学生による評価アンケートを実施する。
アンケートは事務部学務課において集計し、学長へ報告する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

事務部学務課において集計したアンケート結果は、FD委員会で分析した上、各教員へ返却する。
学生には、結果全体の報告書を学生ポータルサイトに掲載する。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学は、「生命の尊厳、生命の平等」を建学の精神とし、病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現を目指すとともに、保健医療福祉に関する理論と応用の教授研究を行い、幅広く深い教養及および総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、保健医療福祉に関する指導者とその専門従事者を養成し、地域医療はもとより国際社会にも貢献し得る有能な人材を養成することを目的に設置された。

開学後の4月より医療者としての素養が育まれる教育が行われている。現状においても質の高い授業が行われており、総合教育科目の、「医療とICT」「社会保障制度論」「医学英語Ⅰ」において、科学的・論理的思考力を身に付け、国際化に対応できる視点を養う学修をしている。専門基礎科目では、「解剖学」や後期開講の「生理学」において、人体の構造と機能など、医学全般にわたる基礎知識を学修し、専門科目では後期開講の「言語聴覚障害学概論」において、言語聴覚学について学修する。なお、後期には、建学の精神に沿う「生命倫理」が開講される。

設置の趣旨・目的を達成するための、幅広い教養、豊かな人間性、保健医療に関する基礎知識の獲得ができていくものと捉えている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・設置初年度（2019年度）及び翌年度（2020年度）の2年間の教育研究活動を総括し、2021年6月下旬公表。

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和6年度に評価機関（公財法人日本高等教育評価機構）の評価を受けるべく、学内で準備中

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

- a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

- b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]
- c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

- d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。